



史蹟史料部

2023年8月30日

#39

# 日本人墓地公園

# ニュースレター

## 今井小静の顕彰碑

日本人墓地公園の門を入ってすぐ左手に並ぶ、ひのもと地蔵尊。このお地蔵様については[ニュースレター#1](#)でご紹介しましたが、今回はその地蔵尊を建てた発起人である今井小静の顕彰碑をご紹介します。

今井小静は満州国ハルピンで料亭を経営していましたが、1942（昭和17）年7月、すでに日本占領下となっていたシンガポールに移住、軍の援助を得てカトンに料亭「近松」を開店しました。日本から総勢90名の芸者を呼び寄せて、女将として「近松」を切り盛りしました。

終戦後は他の民間日本人とともにジュロン収容所に抑留されますが、その後帰国し築地に料亭「新小松」を開きました。

戦後の日本人墓地の荒廃を憂い、シンガポール政府に接収されていた墓地の返還に尽力しました。ジュロン収容所抑留中に死去した民間人41名の霊を弔うため、墓地内に地蔵尊の建立を祈念し募金に奔走、大勢の協力を得て1970（昭和45年）に「ひのもと地蔵尊」が完成しました。

ひのもと地蔵尊には、在留邦人の安産と子供たちの健やかな成長、当地を訪れる人々の旅の安寧などの願いも込められています。

日本人会発行書籍「南十字星 創刊 10 周年記念復刻版 - シンガポール日本人社会の歩み - 」には、今井小静の手記「ひのもと地蔵尊建立記」が収録されています。ここで一部抜粋してご紹介します。

「これ程、立派な日本の高度成長に外地の日本人墓地が草茫茫で恥しかった、との話を聞いて、果敢なくあの地で亡くなった日本人の霊をお慰めしたい、と思ったのが始まりで、外務省へ行き、墓地の清掃をお願いしたのは、たしか昭和 35 年頃と思います。（中略）

その日はちょうど日曜日で、大使は不在、大使館の日本人墓地関係者と日本人会長であった東銀シンガポール支店長の雨宮さん御夫妻の案内で清掃された墓地にお詣りしました。

寺内元帥の大きなお墓や 3 基の戦死者の立派なお墓にわざわざ日本から持参した 200 本のカーネーションを捧げた時の嬉しさ、これは何事にも代えがたいものでした。

この時ジュロンで抑留中に亡くなった民間人 41 体の英霊がジュロンから日本人墓地に移された話を聞いて、お墓の建立を思いたったわけです。

しかし、当時の話としては、日本人墓地が接収されているので、日本人の思うように建設はできない、但しシンガポール政庁に対し 140 万円を支払えば返還されるということでした。そこで私は日本へ帰ると直ちに外務省に井関アジア局長を訪ねて、この件について嘆願いたしました。

かくして 1 年後にこの問題は政治的に解決されて、1 万坪にわたる日本人墓地が日本人の手に還ることとなったのであります。

さて、今回のお地蔵様建立の件に就いては、当初、殉難者のお墓建設にと 300 万円の寄付を申し出る方もあったのですが、日本人戦死者のことばかり大ピラにはできかねる現地の事情もあってお墓建立は沙汰やみとなった次第です。

その後、私が大阪市天王寺別院、大和霊園の管長である半田和久先生に御相談申し上げましたところ、先生は、それにはお地蔵さまが一番よいと御指導下さいました。

この結果、高松の味石による 5 尺 5 寸、下台ともで 9 尺のお地蔵さまが御誕生になったわけです。（中略）

ひのもと地蔵尊にはシンガポールにお出での日本人は必ずお参りして頂くよう現地日本人会によくお願いしておきました。地蔵尊の御利益は英霊のみでなくシンガポール在住の日本婦人の安産とその子供のお守りです。また旅行者で参った方は帰国するまで必ずこの地蔵様が守って下さるのです。現地にお越しの節はあの美しく、やさしいお地蔵さまのお顔に是非接して下さいますようお願いいたします。」



今井小静の顕彰碑は、日本人墓地公園内メモリアルプラザにあります。

メモリアルプラザについては、[ニューズレター#6 先人を偲ぶ集いの場 Memorial Plaza](#)にて詳しくご紹介しています。



ひのもと地藏尊の赤い前掛けは、シンガポール人のエステー・タンさんが毎年手作りして、ご寄付していただきます。

現在シンガポールとオーストラリアのご家族の元を行き来していらっしゃるため、先日はこの先の2年分を届けていただきました。

いつもありがとうございます！

毎年3月14日の日本人墓地慰霊祭の直前に、新しい前掛けに交換しています。

